

僧侶を檀家以外の家に派遣し、一見の法要を執り行ってもらう民間企業などの僧侶紹介ビジネスが、広がりを見せている。「お気持ち」とされるお布施も料金表に明示してわかりやすくした。背景には、寺と檀家との結びつきが希薄になったことや経済の悪化などがある。時代の変化に合わせて、寺や僧侶のあり方も変容しつつある。

(岡田英也、蛭川眞貴)

■進む宗教離れ

滋賀県内にある浄土真宗寺院の副住職の男性僧侶(36)は月に5回ほど、僧侶紹介会社のアルバイトとして、寺の門徒(檀家)以外の葬式や四十九日法要、年忌法要などに向く。

全国の寺院数はコンビニエンスストアの1.8倍の約7万7500(2008年、文化庁調べ)。身近な存在のはずだが、依頼者は故郷を離れるなどして菩提寺がない例が多いという。

「誰かが亡くなった時しか、お寺や宗教に接する機会がないのじゃない」。普段、行き来のない家でお経を読むたび、副住職は一般の宗教離れを感じるという。

とはいえ、アルバイト収入は、年収約300万円の半分

檀家以外の法要に僧侶派遣

一見さん、HPで申し込み



近くを占める。寺の門徒は約70戸。住職の父親と手分けして法要に回り、お布施をいただく。それだけでは妻子を養えず、一年半前、紹介会社に登録した。

■お気持ち？料金？

副住職の登録先は、インターネットサイト「お坊さん」(http://obousan.jp)を運営する名古屋市の僧侶紹介

会社「プロ」。サイトは2009年3月に開設され、登録した僧侶は約300人になる。お布施料金は明示されており、通夜と葬儀、戒名を合わせて12万円と相場の半額以下。同社によると、申し込みは月150件を超える。僧侶も利用しても経済的な理由が多

各宗派の僧侶さん・お坊さんをご手配
法事法要・お通夜・お葬式・供養・戒名授与・ご祈祷・ご祈願
紹介手数料は無料です

通夜・告別式・火葬・初七日・俗名 お布施料金 ¥100,000円	通夜・告別式・火葬・初七日・戒名 お布施料金 ¥120,000円
-------------------------------------	-------------------------------------

●「僧侶として遺族にどう寄り添うか」を模索している稲垣住職(京都市右京区)は川崎公太撮影のお布施の料金を明示している僧侶紹介会社「お坊さん.jp」のホームページ

という。

大手スーパー・イオンも昨年5月、同社の葬儀社紹介サービスの利用者に、ホームページ(HP)で料金を明示した。

「お布施は「お気持ち」で決まるもの。料金を設定すべきでない」という仏教界の反発を受け、イオンは同9月、HPから料金を削除。しかし、利用者には好評だったという、電話での問い合わせは受けている。

こうした現状に、日本葬祭アカデミー教務研究室(東京)の二村祐輔代表は「葬儀が形骸化し、僧侶を持つ「ビジネスマン」が出現した形。仏教者は本来、料金で動くものではなく、仏教の宗教的価値が損なわれる」と批判的だ。

■伝統教団も対策

僧侶紹介ビジネスは首都圏で約10年前に始まったという。関西での利用者はまだ少ないが、京都に拠点を置く伝統教団の中にも、宗教離れを防ぐ一策として、檀家以外に僧侶を派遣する新しい試みが

お布施の料金明示／「宗教的価値損なう」批判も

みられる。真宗大谷派(本山＝東本願寺、京都市)は2006年から、関東などへ転居し、菩提寺と離れた門信徒に、首都圏の同門の僧侶が出向いて法要を営む「仏事代行制度」を本格的に始めた。

同派の門信徒は現在、約550万人。60年前から約80万人減った。制度は、寺との縁をつなぎ留め、減少を食い止めるのが目的。お布施は従来通り「お気持ち」とし、料金明示化の流れとは一線を画している。

浄土宗西寿寺(京都市)では、同寺を事務局とするNPO法人が08年から、ネット上に「お坊さん119」(http://www.last-ceremony.sakura.ne.jp/obousan119.html)を開設。火葬のみの「直葬」を望む遺族に対し、僧侶が火葬場で読経するなどの法要を格安の3万5000円で行うとしている。

直葬を選ぶ遺族には、葬儀費用やお布施を用意できないという経済的事情がある場合が多い。一方で、僧侶を招いて法要をしてあげられなかったことを後悔している遺族も多いという。

稲垣妙順住職(54)は「僧侶は自分たちの生活も大事だが、遺族とどう寄り添うかというのを、もっと考えるべきでは」と話した。